

平成 18 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況 (連結)

平成 17 年 8 月 5 日

上場会社名 株式会社 MARUWA

(コード番号: 5344 東証・名証第 1 部)

(URL <http://www.maruwa-g.com>)

代表者 代表取締役社長 神戸 誠

問合せ先 取締役経営企画室長 永光 哲也 (Tel 0561-51-0839)

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有

平成 17 年 4 月 1 日付けで新規連結子会社が 1 社増加しました。(除外はありません。)

株式会社金門電気の全株式を取得し、株式会社 MARUWA SHOMEI と社名を変更しました。

2. 平成 18 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況(平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績 (連結) の進捗状況

[百万円未満: 四捨五入]

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期) 純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18 年 3 月期第 1 四半期	4,481	7.3	398	29.4	444	35.6	51	67.7
17 年 3 月期第 1 四半期	4,176	46.4	308	623.6	327	215.3	156	187.6
(参考)17 年 3 月期	15,529		1,357		1,625		1,225	

	1 株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
18 年 3 月期第 1 四半期	4. 69	4. 67
17 年 3 月期第 1 四半期	14. 32	14. 32
(参考)17 年 3 月期	112. 40	112. 18

(注 1) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示します。

(注 2) 平成 18 年 3 月期第 1 四半期、平成 17 年 3 月期第 1 四半期とも、監査法人による監査は受けておりません。

経営成績の概況

4 月より新しく照明機器事業を M & A により取得し、展開しております。この事業においては現在の主力が公共事業関連の照明機器であるため、既存のセラミック部品事業とは事業形態が大きく異なっております。当社の事業状況を正しく理解していただけるよう、既存の回路部品部門、機構部品部門、高周波部品部門、EMC 対策部品部門からなるセラミック部品事業と照明機器事業の各々の状況を記載しております。

売上高は、前年同期比 7.3% 増の 4,481 百万円となりました。前年度第 2 四半期以降続いておりました電子部品市場における在庫調整場面は、直前の前年度第 4 四半期以降ゆるやかではありますが回復傾向を示してきております。セラミック電子部品市場の当年度第 1 四半期は、これらの流れに乗るとともに、4 月から M & A により取得した積層ビーズ、インダクタ製品群が新たに戦列に加わったことにより、デジタル家電市場の活況、ならびにこれと同調し好調であった半導体生産装置市場に牽引され高収益を得た前年同期売上とほぼ同実績を得ることができました。照明機器事業はその事業形態の特異性から当期第 1 四半期の売上高は 264 百万円となりました。

利益面では、5 月公表の業績予想を大きく上回り、経常利益は前年同期比 35.6% 増の 444 百万円となりました。電子部品市場において顧客からの価格低減要求は依然強いものの、これまで取り組んでき

た在庫削減、リードタイム短縮、品質・歩留向上活動による事業体質強化、M & Aで取得した赤字事業の黒字化、新規開発製品の利益貢献化の効果が現れてきております。セラミック部品事業における営業利益は、好調であった前年同期比で91.5%増の590百万円となりました。

新規に開始した照明機器事業は売上が3月に集中し、当初は経費のみが発生することにより当年度第1四半期の営業利益は191百万円となりました。現在、当社既存営業拠点との統合、コスト削減等の事業再編を進めており、赤字幅は確実に低減されており、通期収益の改善への効果が認められるものと期待できます。

なお、当期純利益が51百万円となっておりますのは、平成17年5月に発表いたしました期初の見通しのとおり、役員退職慰労金制度廃止にともなう打切り支給による特別損失261百万円を含むものであります。

セグメント別の概況(連結)

セグメント別の売上高および営業利益 (百万円)

	平成17年3月期 第1四半期		平成18年3月期 第1四半期			
	売上高	営業利益	売上高	増加率	営業利益	増加率
セラミック部品事業 セグメント	4,176	308	4,218	1%	590	91.5%
照明機器事業 セグメント	-	-	264	-	191	-
合計	4,176	308	4,481	-	398	-

セラミック部品事業セグメントの売上高推移(連結) (百万円)

	前期 (平成17年3月期)				当期 (平成18年3月期)
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
回路部品	1,746	1,566	1,479	1,421	1,649
機構部品	1,363	1,376	1,257	1,257	1,129
高周波部品	259	270	302	265	344
EMC対策部品	808	768	720	673	1,096
合計	4,176	3,981	3,758	3,615	4,218

回路部品部門

回路部品部門の売上高は、直前の前年度第4四半期に対し16.0%増収の1,649百万円となりました。いずれの製品群においても直前四半期実績に対して伸長しており、特に台湾市場からの受注が好調で、当年度第2四半期もこの好調が続くものと予想しております。

機構部品部門

機構部品部門の売上は、直前の前年度第4四半期に対し10.2%減収となる1,129百万円となりました。

前期におけるデジタル家電の活況による半導体製造装置分野からの好調な受注と製造部署の再編などによる事業基盤の強化を図ることで増収増益を得た石英ガラス製品において、前期第4四半期から始まった市場調整による受注低下は回復傾向が未だ見えず予測を下回る売上結果となりました。石英ガラス製品において第2四半期においても受注が大きく改善する予想は得難い状況ですが、下期に向かって受注回復傾向が見られる状況に変わりつつあります。引続き工程改善などによる利益確保を進めると同時に、材料開発、ウェハ大型化対応製品の開発を急ぎ、更なる基盤強化の活動を進めます。

当部門における他製品は堅調な伸長となりました。

高周波部品部門

高周波部品部門の売上高は、直前の前年度第4四半期に対し30.2%増収の344百万円となりました。

電子部品市場のゆるやかな回復と合わせてVCO(電圧制御発信機)の新規アプリケーション分野への拡張、誘電体フィルタにおけるLNB(低雑音コンバータ)製品分野からの好調な受注を得たことが要因として挙げられます。前年度に収益体制を確立し、今後の伸長が期待される薄膜基板はDVD関連

分野で売上が伸びており、他分野への展開も含め今後更に進展する基調を呈してきました。

EMC 対策部品部門

EMC 対策部品部門の売上高は、直前の前年度第4四半期に対し62.9%増収となる1,096百万円となりました。電子部品市場の受注回復基調の流れに乗り、デジタル市場が活況であった前年同期以上となる売上を得ることができました。

EMC 対策部品部門においては製品バリエーションも着実に増加し、現在ますます加速しています電子機器の小型化、高速化、多機能化に不可欠な EMC 対策の必要性の流れに乗った事業の進展が期待される状況にあると考えます。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年6月30日(当第1四半期末)	30,475	24,492	80.4	2,272 53
17年3月31日(前期通期末)	28,466	24,328	85.5	2,256 48
16年6月30日(前第1四半期末)	27,973	23,652	84.6	2,165 14

当第1四半期末における連結の総資産は30,475百万円となり、当期3ヶ月間の営業活動の結果、前期末と比較して2,009百万円増加しました。このうち2,022百万円は4月から新規に連結子会社となった株MARUWA SHOMEIによる増加分です。科目別では売上債権が1,365百万円増加していますが、この内SHOMEI社による増加分が966百万円であります。また棚卸資産については195百万円増加していますが、既存事業については73百万円を削減し、在庫資産の効率性を向上させております。当期間における新規の設備投資額は380百万円であり、減価償却の実施額は361百万円でありました。

3. 平成18年3月期の業績予想

(1) 連結

中間期 (平成17年4月1日～平成17年9月30日)

	売上高	経常利益	中間期純利益
	百万円	百万円	百万円
今回発表予想(A)	9,360	860	300
前回発表予想(B) (平成17年5月10日発表)	9,360	560	100
増減額(A-B)	0	300	200
増減率	-	53.6%	200%

通期 (平成17年4月1日～平成18年3月31日)

	売上高	経常利益	通期純利益
	百万円	百万円	百万円
今回発表予想(A)	21,230	2,310	1,120
前回発表予想(B) (平成17年5月10日発表)	21,230	1,890	930
増減額(A-B)	0	420	190
増減率	-	22.2%	20.4%
(参考) 平成17年3月期実績	15,529	1,625	1,225

(参考) 事業セグメント別予想

(百万円)

		売上高			営業利益		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期
今回予想	セラミック部品事業	8,560	9,470	18,030	1,050	1,090	2,140
	照明機器事業	800	2,400	3,200	280	240	40
	計	9,360	11,870	21,230	770	1,330	2,100
前回予想	セラミック部品事業	8,560	9,470	18,030	760	1,090	1,850
	照明機器事業	800	2,400	3,200	330	110	220
	計	9,360	11,870	21,230	430	1,200	1,630
差額	セラミック部品事業	0	0	0	290	0	290
	照明機器事業	0	0	0	50	130	180
	計	0	0	0	340	130	470
増減率	セラミック部品事業	-	-	-	38.2%	-	15.7%
	照明機器事業	-	-	-	-	118.2%	-
	計	-	-	-	79.1%	10.8%	28.8%

(2) 個別

中間期 (平成17年4月1日～平成17年9月30日)

	売上高	経常利益	中間期純利益
今回発表予想(A)	7,132 百万円	559 百万円	185 百万円
前回発表予想(B) (平成17年5月10日発表)	7,160	440	140
増減額(A-B)	28	119	45
増減率	-	27.0%	32.5%

通期 (平成17年4月1日～平成18年3月31日)

	売上高	経常利益	通期純利益
今回発表予想(A)	15,260 百万円	1,226 百万円	525 百万円
前回発表予想(B) (平成17年5月10日発表)	15,260	1,100	520
増減額(A-B)	0	126	5
増減率	-	11.4%	1.0%
(参考) 平成17年3月期実績	12,474	611	324

業績予想の修正理由

これまで取り組んでまいりました各事業体質強化が更に進んだこと、新しく加わった製品群が予想以上の早期に利益体質を確立できたことによる増益効果に加え、M&Aによって新たに開始した照明機器事業の経費発生を厳しく想定しておりましたが、これを予想以上に抑制できたことなどにより、営業利益が当初の業績予想から大きく増加しました。

第2四半期以降については、半導体生産装置市場での回復が鈍化しており先行きが不透明なもの、石英ガラス製品の受注回復および、照明機器事業での経費発生をさらに抑制できる見通しであることから、平成17年5月10日に発表いたしました期初の見通しを修正いたしました。

(注)上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

1. 四半期連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

	当期 18年3月期 平成17年6月末	前期 17年3月期 平成16年6月末	前期比増減 金額	前期 17年3月期 平成17年3月末	当期中増減 金額
（資産の部）					
流動資産	16,274	14,246	2,028	14,830	1,444
現金及び預金	6,910	5,922	988	6,935	24
受取手形・売掛金	6,077	4,802	1,275	4,712	1,365
たな卸資産	2,748	3,150	402	2,554	195
その他	539	372	166	629	91
固定資産	14,201	13,727	474	13,636	564
有形固定資産	11,772	11,360	412	11,310	462
無形固定資産	326	365	39	320	6
投資その他の資産	2,102	2,002	100	2,006	96
資産合計	30,475	27,973	2,502	28,466	2,009
（負債の部）					
流動負債	4,026	2,429	1,597	2,412	1,614
支払手形・買掛金	1,948	848	1,099	797	1,151
短期借入金	-	-	-	-	-
その他	2,079	1,581	497	1,616	463
固定負債	1,957	1,891	66	1,726	231
長期借入金	298	447	149	335	37
退職給付引当金	837	754	83	858	22
その他	822	690	132	533	289
負債合計	5,983	4,320	1,663	4,138	1,845
少数株主持分	-	-	-	-	-
（資本の部）					
資本金	6,683	6,683	0	6,683	0
資本剰余金	9,710	9,710	0	9,710	0
利益剰余金	9,537	8,589	948	9,577	40
その他有価証券評価差額金	11	26	15	16	5
為替換算調整勘定	869	1,054	186	1,077	209
自己株式	581	303	278	581	0
資本合計	24,492	23,652	839	24,328	163
負債、少数株主持分及び資本合計	30,475	27,973	2,502	28,466	2,009

2. 四半期連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当期		前期		増減		（参考）	
	18年3月期 第1四半期		17年3月期 第1四半期				17年3月期 通 期	
	金額	売上比 (%)	金額	売上比 (%)	金額	率	平成15年	売上比 (%)
売上高	4,481		4,176		305	7.3	15,529	
売上原価	3,091	69.0	3,120	74.7	29	0.9	11,187	72.0
売上総利益	1,390	31.0	1,056	25.3	334	31.7	4,342	28.0
販売費及び一般管理費	992	22.1	748	17.9	244	32.6	2,985	19.2
営業利益	398	8.9	308	7.4	90	29.4	1,357	8.7
営業外収益	68	1.5	61	1.5	8	12.9	367	2.4
受取利息および配当金	7		4		3	61.4	22	
受取賃貸料	28		27		1	2.0	113	
連結調整勘定償却額	53		39		14	37.2	156	
その他	24		10		15	150.1	58	
為替差益（差損）	45		20		25		19	
営業外費用	22	0.5	41	1.0	18	45.3	99	0.6
支払利息	2		3		1	38.0	10	
投資固定資産賃貸費用	8		8		0	2.0	37	
その他	12		29		17	58.5	52	
経常利益	444	9.9	327	7.8	117	35.6	1,625	10.5
特別利益	1	0.0	2	0.0	1	52.3	3	0.0
特別損失	333	7.4	60	1.4	273	454.2	448	2.9
たな卸資産廃棄損	-		-		-		198	1.3
役員退職慰労金	261		-		-		0	0.0
固定資産除売却損	72		-		-		112	0.7
その他特別損失	-		60		-		138	0.9
税金等調整前 当期純利益	112	2.5	269	6.5	157	58.3	1,180	7.6
法人税等	19	0.4	52	1.2	33	63.2	170	1.1
法人税等調整額	43	1.0	61	1.5	18	29.9	215	1.4
当期純利益	51	1.1	156	3.7	106	67.7	1,225	7.9